

言順	15	議席番号	20	質問者	大野 保司 議員
----	----	------	----	-----	----------

質 問 事 項	答弁指定者
1 未来に向けた南越谷駅・新越谷駅周辺地域のにぎわい創出及び越谷サンシティの整備について ① 越谷サンシティ以外の都市整備について ② 越谷サンシティの整備について	市 長
2 レイクタウン大相模調節池の水辺活用について ① 「（仮称）大相模調節池河畔水辺活用に関する基本協定」など民間事業者等と連携した取組と今後の展開について ② 水辺のまちづくり館を含む市有地の活用の検討について	市 長
3 不登校対策と教育相談体制の充実について ① 越谷市の不登校対策の取組の現状と課題について ② 教育相談体制の充実について	教 育 長

◆20番（大野保司議員） 議長のお許しをいただきましたので、3点数項目について、市長及び教育長に質問をさせていただきます。

まず、未来に向けた南越谷駅・新越谷駅周辺地域のにぎわい創出及び越谷サンシティの整備について伺います。私は、かねてより南越谷駅・新越谷駅周辺地域は、首都圏の東北部、埼玉県東南部の中心核、越谷の顔となるよう検討を進めるべきと主張してきました。そして、令和2年3月30日に策定され

た南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出事業構想では、南越谷駅・新越谷駅周辺地域が越谷市や埼玉県、ひいては日本を代表するにぎわいを象徴するエリアとなり、市民と市外からの来訪者の双方が楽しめる場とすることを目指していきますとされました。

また、令和3年4月に策定された越谷サンシティ整備基本計画では、現在再整備を検討されている越谷サンシティについて、南越谷駅・新越谷駅周辺地域だけではなく、越谷市全体、埼玉県、ひいてはさらに広い視野で検討を行い、中核市越谷市として県南東部地域を牽引していく施設、県下有数のにぎわいの拠点施設となることを目指しますとされました。ありがとうございました。

その後、越谷市では越谷サンシティ整備基本計画を踏まえ、サンシティの中核施設を検討するホール検討部会、まちづくり、子育て関係団体などの市民ヒアリング、ディベロッパー、ゼネコンなど施行者などとのマーケットサウンディングなどを行い、着手に向け、着々と準備を進めてきましたが、本年6月、コロナ禍やウクライナ情勢などに伴う先行き不透明感から事業準備を1年延期しました。その結果、事業者公募が来年度に繰り延べされました。私は、この延期は現在の不透明な社会情勢の中、今後の事業の行方を検討するためにも適切な状況判断だったと評価します。

そこで市長に伺います。第1に、南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出事業構想では、越谷サンシティ以外の都市基盤整備が併せて取り上げられています。すなわち越谷サンシティに至る歩道等、バスターミナル等、新越谷西口ロータリーの機能改善などです。私はかつて越谷駅東口再開発、中心市街地活性化計画、市役所新庁舎整備計画がそれぞればらばらに行われたため、合計で越谷駅周辺に数百億円以上の公共投資がされ、30年以上の期間をかけたにもかかわらず、越谷駅周辺のにぎわい創出に結びついていないことから、南越谷駅周辺のにぎわい創出に当たっては、関連事業の連携が非常に重要と考えます。

そこで、南越谷のにぎわい創出の関連事業がそれぞれ今後どのように事業着手に向かっていくのか、現時点の検討状況を教えてください。

第2に、越谷サンシティの整備ですが、南越谷エリアを首都圏北東部、埼玉県南東部の中核として育て、越谷の顔として整備するための要になる施設整備になると考えます。例えば中核市越谷市が、中核市市長会は現在は市内で開催することは不可能ですが、仮に将来行うとしたら、その主要施設はこの場所に整備するほかないと考えます。そのためには、ホテルなど宿泊施設や大規模会議が可能なMICE施設の整備が不可欠だと考えますが、市長がサンシティに整備すべき施設の機能とはどんなものか、現時点の考えを伺います。

次に、レイクタウン大相模調節池の水辺活用について伺います。まず、「(仮称)大相模調節池河畔水辺活用に関する基本協定」など民間事業者等と連携した取組と今後の展開について伺います。越谷レイクタウンは、平成20年にまちびらきし、地区内に約2万人が居住しています。まちのほぼ中央に位置する日本最大級の大型ショッピングモール、イオンレイクタウンには、年間約5,000万人が訪れ、さらに隣接する大相模調節池による広大な水辺空間は、優れた都市景観を形成し、大変魅力のあるスポットとしてまちづくりの視点から大きなポテンシャルがあります。一方で、多くの人々が越谷といえば越谷レイクタウンとイオンレイクタウンをイメージし、レイクタウンを除くと越谷は特徴がないという印象を抱く人もいます。また、年間5,000万人を超え

る商業施設の来訪者を市内に回遊させる仕組みづくりは、まちびらき以降、越谷市が常に目指してきましたが、残念ながら成功しているとは言い難く、現実的には難しい課題もあると感じております。

そこで、越谷レイクタウンの魅力をさらに高め、市内にその効果を波及させていくためには、民間事業者と連携し、新しい発想で地域活性化につながるまちづくりに取り組んでいく必要があると考えます。先日、イオンモール株式会社と大相模調節池河畔の水辺の活用に関する基本協定が締結されました。本協定の締結を契機に、河川空間のオープン化を背景に企画段階から民間事業者と共同で、にぎわいの創出に取り組んでいくこととなります。水辺の活用には、民間事業者との連携が事業推進の肝と考えますが、（仮称）大相模調節池河畔水辺活用に関する基本協定など、民間事業者等と連携した取組と今後の展開について市長に伺います。

次に、水辺のまちづくり館を含む市有地の活用の検討について伺います。越谷市観光協会が事務所として使用する水辺のまちづくり館は、大相模調節池に隣接し、今後推進される水辺活用の事業区域と相乗的な効果が期待できる場所にあります。さらに、水辺のまちづくり館の隣にある市有地と合わせると約1ヘクタールという一定規模の土地があります。当該土地は、レイクタウン整備事業用地として取得したもので、今後の活用に向けて市がどのような考えで検討していくのか、市長の見解を伺います。

次に、不登校対策と教育相談体制の充実について伺います。越谷市の不登校対策は、安心して通うことができる学校づくり、一人一人の状況に応じた支援の充実を前提に、未然防止、早期発見、早期対応に向けて、児童生徒の理解と教職員の意識向上、児童生徒の実態把握、個に応じた組織的対応が市内の小中学校及び教育センターとの連携で展開されていると伺っています。そして、いわゆる不登校発生率の目標値として、過去5年間で最も数値が高い令和元年度の小学校は0.38%、中学校は3.2%を基に、毎年0.05%ずつ減らしていくことを目標にしているところですが、小学校は令和2年度0.46%、82人です。令和3年度0.6%、107人。中学校は、令和2年度3.28%、281人、令和3年度3.89%、339人となり、逆に増加傾向にあります。全国、埼玉県令和3年度の不登校発生率は10月に明らかになるとのことですが、越谷市は小中一貫教育を開始した平成27年度より、不登校率が全国、埼玉県より下回っており、越谷市の教育が優れていることを示しております。

画面の切替えをお願いいたします。このグラフは、公表データから私が作成したものです。ちょっと慣れないので字が細かくなってしまっていて恐縮ですけれども、上の3本が中学校の国、県、市の不登校割合、下の3本が小学校の不登校割合です。このグラフで読み取ってほしいことは4つあります。1つ目は、越谷市の発生率は、国、県を下回っており、越谷の小中一貫教育が成功しているということです。それから、2つ目は、中学校は小学校の6倍から10倍の発生率だということ。ちなみに中学生は100人に3人か4人、小学生は200人に1人ぐらい不登校になられている。3つ目は、コロナ前と後を令和元年度と令和3年度に置き換えて比較すると、小学校は1.6倍、中学校は1.2倍と急増していることで、4つ目は、そのことから小学校の伸びが最近急だということでございます。こちらはそれを数字で裏づけたものでございます。

画面の切替えをお願いいたします。不登校発生率は、毎年じわじわ増加傾向で改善が進まない原因の一つに、コロナ禍による学校の休業や感染症対策によるコミュニケーション不足が考えられます。当事者の児童生徒や保護者にとっては、まさに目の前の課題であり、数にかかわらず1件1件が解決すべき重要な課題です。

そこで、具体的には、小中学校の校内相談体制の充実のために学校相談員、スクールカウンセラーの配置や教育センターの教育相談機能の効果的な連携と支援などを行っているところと伺っています。しかしながら、学校に設置した学校相談員への相談件数は、令和元年度、延べ9,041人、令和2年度、延べ9,365人、令和3年度、延べ7,839人となりまして、教育センターへの来所相談延べ件数は、主な訴えが不登校のものに限りましても、令和元年度1,586件、令和2年度1,538件、令和3年度は1,658件と高止まりしたまま増加しており、相談しようとしても1週間、2週間待つことはかなりの頻度でよくあると伺っております。

不登校対策は、未然防止、早期発見、早期対応の方針で行っていると伺っていますが、私は不登校と言われる年間30日以上欠席はもとより、遅刻や欠席が増えてきた、いわゆる登校渋りの段階で、学校と家庭が連携して対応することが最も重要だと考えます。本来、学校の担任と保護者の連携が重要で、このコロナ禍で細くなってしまった先生方と保護者とのコミュニケーションの絆を取り戻す必要があります。しかし、それにしても、いざ保護者が児童生徒の変調に気づき、学校と相談しようとしても、担任の先生は多忙でつかまらない、相談員も不在、教育センターでの相談は何週間も先という状況では、なかなか当事者のご家庭と児童生徒は救われません。

については、越谷市の不登校対策の取組の現状と課題、また対策の要となる教育相談体制の充実のポイントについて、教育長に伺います。以上で1回目の質問を終わります。

○小林豊代子副議長 ただいまの質問に対し、市長、教育長の答弁を求めます。

〔福田 晃市長登壇〕

◎福田晃市長 それでは、ただいまの大野議員さんのご質問に順次お答えいたします。

まず、未来に向けた南越谷駅・新越谷駅周辺地域のにぎわい創出及び越谷サンシティの整備についてのお尋ねでございますが、越谷サンシティ以外の都市整備について及び越谷サンシティの整備についてに関しましては、関連がございますので、一括してお答えいたします。

南越谷駅・新越谷駅周辺地域の現状として、その核である越谷サンシティは、昭和54年のオープンから40年以上が経過して老朽化が進み、この間、大型商業施設イオンレイクタウンが開業するなど、商圈の変化もあり、オープン当初に比べて、施設を含めエリアのにぎわいが低下しております。こうし

た状況を踏まえ、令和2年に策定した南越谷駅・新越谷駅周辺地域にぎわい創出事業構想では、新たな越谷サンシティの機能の検討、さらには駅周辺の都市基盤整備の検討として、サンシティに至る歩道、バスターミナル、新越谷駅西口ロータリーなどの整備について検討することとしています。

令和3年に策定した越谷サンシティ整備基本計画では、人を中心に据えた4つのコンセプトを掲げ、施設整備については、建て替えや民間活力の活用などの方針を打ち出しております。その上で、公共施設の機能については、サンシティという施設が、当時市民の念願であった文化芸術の伝導としてオープンしたという成り立ちや、これまでの歴史、そして現在でも多くの市民に親しまれている。こうしたことから、現施設にあるイベントホール、図書室、出張所、広場については新たな施設においても公共施設として位置づけ、整備をする。また、敷地の余剰地を活用し、民間事業者が整備、運営を行う民間施設については、事業者の提案によりその機能を決定するが、アリーナやサテライトオフィス、MICE、ホテルといった市民の皆さんから民間施設に望む機能としていただいた意見を含め、公共施設との相乗効果が期待できる機能などについて検討する。さらに、民間施設の一部に図書室などの公共機能を取り込むことが可能かどうかといったことについても検討することとしています。

計画策定後は、サンシティの市場性や民間事業者の意向などを調査するため、マーケットサウンディングを実施しており、多くの事業者の皆さんと具体的な対話を行っています。さらに、無作為抽出した市民の皆さんによる意見交換会やワークショップを通じ、新たなサンシティのイベントホールの快適さや広場のにぎわいなど、幅広く意見をいただいております。

サンシティ整備については、ご案内のとおり、本年5月に当初のスケジュールを変更し、事業の1年延期を決定いたしました。これはコロナ禍の収束が見えず、さらにウクライナ情勢の影響等により、エネルギーや建設資材価格が急騰するなど、先行きが不安定、不確定な要素が多く、市民の皆さんにとって最も有益なのは何かという視点から、一旦立ち止まって見極める期間が必要と判断したものでございます。変更後のスケジュールとして、令和5年度に事業者を公募、令和7年度から令和10年度の4年間で現施設を解体、新たな施設を建設し、令和11年度当初のリニューアルオープンを目指してまいります。現在多くの皆さんからいただいたご意見、ご提案を十分踏まえ、社会経済情勢などを注視しながら、ウィズコロナや脱炭素に対応した施設整備などについても検討を重ねているところでございます。

また、駅周辺エリア全体のにぎわいを創出するためには、サンシティ以外の都市整備についても併せて取り組んでいく必要があると認識しており、このため庁内関係部署による協議、検討、さらには埼玉県との意見交換なども行っているところでございます。今後もサンシティの整備を基軸に、都市計画マスタープランで都市拠点と位置づけている南越谷駅・新越谷駅周辺について、行政機能や文化機能、商業・業務機能、医療・福祉・子育て支援機能、交通機能など、多様な都市機能が集積する都市の顔となる拠点にふさわしいエリアとなるよう、引き続き鋭意努めてまいりますので、ご理解賜りたいと存じます。

次に、レイクタウン大相模調節池の水辺活用について、「（仮称）大相模調節池河畔水辺活用に関する基本協定」など民間事業者等と連携した取組と今後の展開について及び水辺のまちづくり館を含む市有地の活用の検討についてに関しましては、関連がございますので一括してお答えいたします。

河川をにぎわいのある場所として積極的に活用することを目的に、平成 23 年度に河川敷地占用許可準則が改正され、営業活動を行う民間事業者の河川敷地の利用を可能にする、いわゆる河川空間のオープン化が推進されております。大相模調節池の広大な親水空間は、集客、交流の視点から大きな可能性がございます。これまで民間事業者等と連携し、スポーツランニングイベントやイルミネーションイベントを開催し、住民が参加できるにぎわいを創出するとともに、水辺を活用して新事業を創出する社会実験を実施し、市内事業者が継続的に実施できるビジネスモデルの確立に向け、試行と検証を行ってまいりました。

また、越谷市観光協会が主催する小型ヨット乗船体験「レイクタウンボートパーク」並びに市内事業者や住民で組織された実行委員会が主催する参加型マルシェ「Lake and Peace」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの観光事業やイベントが中止、縮小となる中で、いずれも大変好評と聞いております。

さらに、本年 8 月 27 日には、水辺の活用を一層推進するため、良好な水辺空間の形成、にぎわいの創出及び地域との連携による魅力の向上等の項目について、企画段階から連携して取り組むことを内容とする基本協定をイオンモール株式会社と締結いたしました。イオンモール株式会社が管理運営するイオンレイクタウンは、大相模調節池に隣接し、日本最大級の規模と全国的な知名度を誇る本市を代表する場所の一つでございます。基本協定を踏まえ取り組む事業として、大型商業施設の年間 5,000 万人を超える集客力や多種多彩なテナントとの連携を強みとし、店舗の出店や水上アクティビティーの実施、さらには創業やコミュニティの拠点づくりなどが提案されております。今後これらの内容に踏まえ、地元自治会及び市民団体等で構成される大相模調節池水辺活用調整協議会などと合意形成を図るとともに、河川管理者である埼玉県との連携により、水上デッキや棧橋等の施設が整備される予定でございます。

このように、水辺の活用を推進していく中で、隣接する水辺のまちづくり館を含む市有地については、このエリアの集客力や広大な水辺空間、駅からのアクセスといった立地特性に適した活用について総合的に検討してまいります。河川の商業利用により、にぎわいを創出する事業では、水辺空間をきっかけとして地域が活性化する仕組みが大切な要素と考えております。引き続き、大相模調節池の広大な親水空間を生かし、魅力あるまちづくりに取り組んでまいります。私からは以上となります。

○小林豊代子副議長 次に、教育長。

〔吉田 茂教育長登壇〕

◎吉田茂教育長 それでは、ただいまの大野議員さんのご質問に順次お答えをいたします。

まず、不登校対策と教育相談体制の充実についてのお尋ねでございますが。越谷市の不登校対策の取組の現状と課題については、小中学校の不登校児童生徒数は、全国、県ともに年々増加しており、本市におきましても全国、県の不登校児童生徒の割合を下回っているものの、増加傾向にあります。

このような状況の中、不登校対策の取組として、各学校では不登校や登校を渋る傾向の児童生徒に対して、家庭訪問や電話連絡などきめ細やかな対応を行っております。また、生徒指導部会や教育相談部会等の校内体制を整備し、個々の課題解決に向け、児童生徒の情報交換をするとともに、教育センターと連携するなど組織的に取り組んでおります。

教育委員会では、欠席日数をはじめ、学校や家庭での様子など、現状の把握をするため、毎月各学校に不登校調査を行い、調査結果を分析し、校長会で不登校の現状や傾向を周知しております。また、教育相談研修会や年次研修会において、教育相談の重要性や対応の仕方について研修を行い、教職員の資質向上を図っております。

さらに、増加傾向の高い学校につきましては、指導主事が直接学校に出向き、ケース会議や校内研修会に参加するなど、不登校対策について具体的な助言を行っております。今後もこれらの取組を一層充実させるとともに、工夫、改善を図りながら、不登校の未然防止、早期発見、早期対応に努めてまいります。

次に、教育相談体制の充実についてのお尋ねでございますが。児童生徒や保護者に対して様々な相談窓口を設置しております。各学校においては、学校相談員及びスクールカウンセラーを配置し、教職員と連携を取りながら、児童生徒や保護者との相談体制をつくり、不登校の早期発見、早期対応に努めております。

教育委員会においては、児童生徒が悩みを相談できるように、電話で相談できるハートコールや、今年度より新たに児童生徒の1人1台のタブレットから相談できるトラブル相談ホットラインを開設し、不登校につながるような悩みについて早期対応できるようにしております。

また、教育センターでは、指導主事、教育相談員、訪問相談員による来所相談、訪問相談、電話相談、メール相談を行っております。不登校児童生徒への対応についても、適応指導教室「おあしす」に学び総合指導員を配置し、不登校児童生徒の社会的自立のための学びの場をつくとともに、対象の児童生徒や保護者に対して支援を行っております。

さらに、児童虐待や経済的な理由等、家庭環境に関わる不登校に対しては、スクールソーシャルワーカーを配置し、福祉や医療、法律等の専門機関と連絡調整を図りながら、学校と連携した家庭支援に取り組んでおります。

今後も教育相談体制の一層の充実を図り、学校や家庭と連携した総合的な不登校対策に取り組んでまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

○小林豊代子副議長 ただいまの答弁に対し、続けての質問はありませんか。（20番 大野保司議員「はい」と言う）

20番 大野議員。

◆20番（大野保司議員） 答弁ありがとうございました。順次端的に再質問をさせていただきたいと思います。

まず、サンシティ以外の都市整備ということについて伺いたいのですが、やはり越谷の顔、埼玉県東南部の中心地として南越谷を育てるには、いろいろあるのでしょうかけれども、ここが便利だということを示すというのが非常に重要で、新幹線はわざわざ越谷には持ってこられませんので、バスターミナルを整備する必要がある、それが優先順位非常に高いのではないかなというふうに思うのですが、いろいろ適地が、真剣に探して検討していかないと、どこなら造れるのかというのが見えてこないと思うのです。その検討を早急に私はやっていただきたいと思うのですが、市長の考えを伺います。

○小林豊代子副議長 市長の答弁を求めます。

◎福田晃市長 ただいまのご質問につきましては、総合政策部長よりご答弁を申し上げます。

○小林豊代子副議長 総合政策部長。

◎徳沢勝久総合政策部長 それでは、お答えをさせていただきます。

今議員さんがおっしゃった課題というのは十分認識をしておりますけれども、これは一気に解決するというわけにはなかなかいきませんが、例えばバス事業者の方でありますとか、あるいはツアーを主催する旅行会社の方、こういった方々からヒアリングを行うなど、バスターミナルの整備に当たっては、まずは現状の課題の洗い出しが必要であるというふうに認識をしております。その上で、南越谷エリア全体を検討していく中で、広域的なバスターミナルの整備が可能かどうか、こういったことについてもしっかりと調査検討してまいりたいと考えてございます。以上でございます。

○小林豊代子副議長 続けての質問はありませんか。（20番 大野保司議員「はい」と言う）

20番 大野議員。

◆20番（大野保司議員） ありがとうございます。道路買収とかをやらなくても、既存のところでも空港バスなんか使うとよく分かるわけですが、ニーズはたくさんあるけれども、適地がはっきりしないし、いろいろな交通渋滞、ふくそうしてしまっているということなので、これはまさに行政が主導して意識的にやっていただかないと解決しない課題で、市民の期待も実は大きいのではないかなというふうに思っておりますので、よろしくお願いします。

次に、整備計画で示された施設の問題について伺いたいのですが、いろいろ夢のあるお話は整備計画で示されておりますけれども、今の経済状況を見ると、本当に大丈夫なのかなというのが心配なわけでごさいます、マーケットサウンディングが行われていると思いますけれども、例えば中核市市長会、きっとここにいらっしゃる人は、中核市になったけれども、市長会を持ってこられるのかなと本当に思っていると思うので、それが開催できるような施設整備ができるような反応がマーケットサウンディングの中で得られたのか、その点について市長のお考えを伺います。

○小林豊代子副議長 市長の答弁を求めます。

◎福田晃市長 ただいまのご質問につきましても、総合政策部長よりご答弁を申し上げます。

○小林豊代子副議長 総合政策部長。

◎徳沢勝久総合政策部長 お答えをさせていただきます。

中核市市長会の開催ということになりますと、大規模な会議でありますとか、あるいは会合といったことができるというのがキーワードになってくるかと思えます。議員さん、マーケットサウンディングについての内容についてはおっしゃっていただきましたが、民間事業者との秘密保持契約がございまして、大変恐縮ですが、申し上げることはできませんけれども、こうした中、私どもといたしましても、公共施設の部分でこれを有効活用し、稼働率を向上させる仕組み、具体的には施設機能の転換ができる、いわゆる可変性といったことになりますか、こういったことについて現在検討しているところでもございます。こうした文脈で、例えばご提案の大規模な会議室などについて、大ホールや小ホールとの併用でありますとか、あるいは展示ホールでの対応が可能かどうか、こういったことについても検討していきたいというふうに考えてございます。以上でございます。

○小林豊代子副議長 続けての質問はありませんか。（20番 大野保司議員「はい」と言う）

20番 大野議員。

◆20番（大野保司議員） それから、サンシティの、やはり中核になるのは、いわゆる括弧づきのホールということで、市民からはアリーナがよいという意見も提起されていると思います。来年度は実施方針、要求水準をいよいよ定めて事業者公募を行っていくということだと思っておりますけれども、市民全体から納得性の高い決め方をしていく、そこが非常に重要なのではないかなと思いますけれども、どのような形でその辺を担保していくのか、市長の現在のお考えを伺いたいと思います。

○小林豊代子副議長 市長の答弁を求めます。

◎福田晃市長 ただいまのご質問にお答えします。

もちろん今までいろんなヒアリングをしたり、いろんな業者さんからいろんな話を聞いてきました。私も市議会議員のとき、そうした場に傍聴させていただき、いろんな意見があることは本当私も肌身をもって感じております。その上で、もちろん最終的には何かに決めなければならないということはあると思います。それにつきましては、しっかりといろんな提案を受けた上で、なぜこれを選んだかというのはしっかり市民の皆様に分かりやすく説明をするという形で、皆様が、ああ、これは本当に造ってよかったと言ってもらえるような施設にしていきたいというふうに考えております。以上です。

○小林豊代子副議長 続けての質問はありませんか。（20番 大野保司議員「はい」と言う）

20番 大野議員。

◆20番（大野保司議員） 越谷市は、かつて越谷駅東口の再開発、それから市役所の整備、それをやっていたわけなのだけれども、中心市街地、いわゆる越谷のまちのあたりの活性化にはなかなか結びついていないと、こういうちょっと苦い歴史があるのではないかなと思います。サンシティの整備についても、南越谷のにぎわいの創出が目的で、サンシティを整備することだけが目標ではないのです。だから、まち全体の未来を考えて、そしてそれが越谷の未来につながるように、ぜひともそういうふうに事業を誘導していただきたいというふうに私は考えるわけですが、市長の考える南越谷エリアのイメージについて伺いたいと思います。

○小林豊代子副議長 市長の答弁を求めます。

◎福田晃市長 ただいまのご質問にお答えをいたします。

先ほどの答弁の中でもお答えさせていただきましたが、都市計画マスタープランで掲げる、まさに都市の顔というような拠点となるであろうと。しなければならぬというふうに思っております。もちろん核はサンシティになるわけですが、サンシティを中心に多くの人が集まり、そしてそこで楽しみ、もちろんイオンレイクタウンと並ぶ越谷の顔として、県内、県外からも、越谷といえばサンシティあるよねと。サンシティだけではなくて、南越谷駅活性化してきたよねというように言ってもらえるようなまちにしていきたいというふうに思います。以上です。

○小林豊代子副議長 続けての質問はありませんか。(20番 大野保司議員「はい」と言う)

20番 大野議員。

◆20番(大野保司議員) 越谷の顔に育てていきたいという市長のお話はあったわけですが、いろいろな機能の中で、本来期待して足りないのは業務部分、経済関係の部分だというふうに私は思っておりますので、その点を南越谷の発展の暁には、業務機能も南越谷にはついてくるのだというようなことを取り入れていただきたいなど。こちらのほうは要望にさせていただきたいと思っておりますので、引き続き検討をよろしくお願いいたします。

次に、レイクタウンのほうの再質問に移らせていただきたいと思います。レイクタウンのほうです。先ほどの答弁では、基本協定を踏まえて取り組む事業として、店舗の出店や水上アクティビティーの実施、さらには地域交流の拠点づくりなどが提案されておりました。単にテナントとしての店舗が増えるとか、集客目的のイベントが増えるということではなくて、水辺の活用の推進の、ここが限定的になると思われますので、イオンモールからの基本協定の事業提案の具体的な内容、どういうことだったのかお伺いいたします。

○小林豊代子副議長 市長の答弁を求めます。

◎福田晃市長 ただいまのご質問につきましては、環境経済部長よりご答弁を申し上げます。

○小林豊代子副議長 環境経済部長。

◎鈴木正明環境経済部長 それでは、お答えをさせていただきます。

イオンモール株式会社からの事業提案の具体的な内容でございますけれども、主に3つの提案がございました。まず、調節池の遊歩道から水上に張り出すデッキを整備いたしまして、その上に店舗などの出店を進める提案でございます。具体的には、開放的なロケーションを生かしました、住宅地の中でありながら日常を彩るというコンセプト、これですとか、非日常の価値を提供する店舗の誘致、こういったことが考えられております。

次に、棧橋を新たに設置をいたしまして、現在ボートですとかカヌーなどの取組がございますけれども、こういった水辺のアクティビティの充実、それから水辺を生かした新たな取組といたしまして、サップですとか足こぎボートなど、新たなコンテンツの実施を検討し、多様な水辺の楽しみ方を発信するという提案でございます。

さらには、芝生の斜面となっている部分の一部に、創業ですとか地域コミュニティの形成に資する地域交流拠点、これを整備いたしまして、コワーキングスペースですとか、一坪ショップなどの事業による越谷発の新たな魅力を生み出すと、こういった提案もいただいているところでございます。以上でございます。

○小林豊代子副議長 続けての質問はありませんか。(20番 大野保司議員「はい」と言う)

20番 大野議員。

◆20番(大野保司議員) ありがとうございます。

今のご説明、3つの提案というのは、イオンのところに、調節池のところに水辺に張り出すデッキをつくって店舗が出るようにする。これが1つ目。もう一つは、今もちょっとあるような気もしますが、棧橋を新たに、もうちょっと大きなものですか、整備して、もっと水辺のアクティビティができるようにする。3つ目に、芝生の斜面のところに地域交流拠点を整備したいということで、そこはコワーキングとか一坪ショップとか、そういったこともやってみたいということなのですが、最初の質問でも申し上げましたけれども、レイクタウンに年間5,000万人来ていて、市内にそういった来た人を流し込んで、市内の事業の活性化を図るとというのが、ずっと市役所が言ってきた狙いで、我々もそれをいいのではないかなと思っていたわけですが、10年以上たってみて、なかなか成功しないと。ということであると、やはり市内の事業者の皆さんのためには、市内の事業者がレイクタウンに出て行って、その5,000万人の集客のメリットを直接受けていくと、そういう視点が必要なのかなと私は思うわけです。そこは、特に今の3番目の話のあった地域交流拠点というのですか、その整備がポイントではないかなというふうに思っております。

画面の切替えをお願いいたします。こちらは地域のご当地アンテナショップで、三重テラスという三重県の持っているもので、日本橋の千疋屋の本店の向かいで、敷地は千疋屋の支店で越谷と縁があると思うのですが、このビルの1階、2階が三重テラス。1階には三重県の数百ぐらいの会社の製

品が置いてありまして、その隣には三重県の代表的な松阪牛と伊勢海老の食べられるレストランがありまして、さらに2階に、これがほかのアンテナショップと違うところだと思うのですけれども、イベントスペースというのがありまして、その2階の空間でいろいろなイベント、それから人的なネットワークづくり、三重県応援団をつくったり、三重県の県人会の皆さんと協力法を考えたりというような場所として活用されていると。最近のアンテナショップの中では、できて10年近くたつのですけれども、かなり成功している部類ではないかなというふうに思っております。そういったものを参考に、そちらの四角にちょっと書きましたけれども、レイクタウンに越谷の事業者のアンテナショップをぜひつくっていただきまして、物販だけではなくて、事業や起業、それからレイクタウン全体を使ったイベントなんかを仕掛けていただいて、地元への還元と越谷の魅力発信をできるようにしていただきたいと。あえて言えば、越谷テラスとか、ガーヤちゃんの蔵屋敷2号店というのですか、そういうようなものをぜひつくるべきではないかというふうに私のほうは提案させていただきたいと思います。

画面の切替えをお願いいたします。具体的に誘致する店舗や地域貢献の仕組みは、今後事業計画の中で明らかになっていくと聞いていますが、私は市内の事業者が物販や創業の拠点として活用できる拠点施設をレイクタウンにぜひ整備すべきと考えますが、改めて市長のお考えを伺います。

○小林豊代子副議長 市長の答弁を求めます。

◎福田晃市長 ただいまのご質問にお答えします。

今ご提案にありましたが、市内の業者が活躍する場、もちろんそういうことも必要ですし、これから提案が来るので、それにするとはなかなか言い切れないところもあるのですけれども、いろんな人が集まって、それは市外の人でも市内の人でもそうですけれども、そういった、特に私が希望するのは、若い方々が集まって何かをいろいろ、そういった例えばアンテナショップを出すとかもそうですけれども、そういうことをいろいろやれたり、新しい事業を何かやってみようか、そういう方が集まって話合いができたり、若い方々が特に中心となって何かを、やる気のある方々が何かを生み出していくと、そういうようなことに資する、そういうことに寄与するそういった施設、地域になればいいかなというふうに思っております。以上です。

○小林豊代子副議長 続けての質問はありませんか。(20番 大野保司議員「はい」と言う)

20番 大野議員。

◆20番（大野保司議員） 若い人という切り口で言われましたけれども、レイクタウンは越谷の顔であって、やはり顔というのは越谷全体の利益を代表するという事です。レイクタウンに住んでいない方々にもぜひとも越谷の利益を感じられる、レイクタウンがあってよかったなど。私のところの商売にも寄与しているなど、こういうようなことを実感していただけるような取組をぜひともお願いしまして、次の再質問をさせていただきたいと思います。

さらには、そういう今やっている事業計画に取り組んでいった後に、大きな市有地がまだレイクタウンには残れていると思うのです。こちら大きな可能性があります。しかしながら、慌てて進めることではなくて、やはり越谷の宝なので、しっかりと効果的な活用を検討していただきたいと思いますが、その1万ヘクタール近くの越谷の市有地、どのように検討して活用していくお考えなのか、市長に伺います。

○小林豊代子副議長 市長の答弁を求めます。

◎福田晃市長 ただいまのご質問にお答えをいたします。

ご指摘の市が所有する土地につきましては、本当に戦略的にかつ効果的に使っていくという必要があるというふうに思っています。当該の市有地は、約9,700平米と一定の規模があり、都市計画マスタープランにおいて観光・交流拠点及び緑・親水拠点として位置づけられた地域特性なども勘案し、本市にとって、より効果が見込める活用を総合的に検討していきたいというふうに思っております。以上です。

○小林豊代子副議長 続けての質問はありませんか。（20番 大野保司議員「はい」と言う）

20番 大野議員。

◆20番（大野保司議員） 南越谷もレイクタウンも越谷の宝なので、越谷全体の発展のために寄与するように、引き続きぜひご検討をよろしく願いしたいと思います。

次、教育の関係の再質問したいと思うのですけれども、今の答弁の中では、不登校だけではなくて登校渋りという状況についてもフォローしているというご答弁がありましたので、実際相談体制はどうなるのかなというところで再質問したいのですけれども、ある保護者に聞いてみると、いざ相談しようとしたときに、多様な窓口はあるのだけれども、学校相談員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、学び総合指導員、そのほかにもいろいろありまして、教育界では当たり前になっているのかもしれないけれども、いざ子供が不登校になりそうだと、こういう状況のときにどこに相談していいか迷ってしまうというようなことなのです。その全体の相談、たくさんの窓口があるのは非常にすばらしいと思うのですけれども、そちらのほう、どこに相談をしに行けばいいのか、分かりやすく保護者に示す必要があると思いますが、教育長のお考えを伺います。

○小林豊代子副議長 教育長の答弁を求めます。

◎吉田茂教育長 ただいまのご質問にお答えをいたします。

いきなりスクールカウンセラーあるいはスクールソーシャルワーカーとかというふうな相談に行くのではなくて、まずは学校に相談をしていただけるとありがたいと思いますけれども、相談窓口の周知については、先ほどご指摘のあった学校相談員、スクールカウンセラー等については、学校だより等でまず保護者に周知しております。

教育委員会では、毎年4月に市内全小中学校に在籍する児童生徒には、子ども専用電話相談「ハートコール」の案内カードをまず配布しております。また、保護者には、教育相談のご案内のリーフレットを配布しております。このリーフレットの内容は、教育センターへの申込み方法あるいは面談についての詳細、適応指導教室「おあしす」、子ども専用電話相談「ハートコール」等の教育センターの所管する全ての相談窓口についてご案内が記載してあります。丁寧に行っているのですけれども、まずは学校に行き行って相談をしていただければと思います。

今後につきましては、ご指摘のとおり、相談場所や相談方法、相談に対応する職員の窓口について、配布するリーフレットに分かりやすく明記してまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

○小林豊代子副議長 続けての質問はありませんか。（20番 大野保司議員「はい」と言う）

20番 大野議員。

◆20番（大野保司議員） よく分かりました。子供が学校へ行きたくないよといったら、まずは担任の先生、学年主任、それから教務主任、教頭先生、校長先生、学校の教育集団がまずあるわけですから、そちらに安心して相談していただきたいと。ただ、なかなかそうはいつでも、まだそんなことどうしていいのかわからないと言っている方から見ると、少し敷居が高くも見えたりするし、コロナ禍で接点が減ってしまって、そこで悩みがあってもなかなか対応が遅れているという現状があると思いますので、その辺のハードル、相談しやすい、話しやすい環境というのをもう一度再構築していただきまして、対策を進めていただければなというふうに思います。

そこで、小学校と中学校の不登校には、先ほどグラフで示したとおり6倍から10倍の開きがあって、その6倍になってきてしまったというのは、小学校の数が増えているからなのです。中学校が減っていて6倍になってしまったわけではなくて小学校が増えている。中学校も増えている中で小学校が増えている。ということは、小学校の高学年あたりの登校渋りというのは非常に今後注意していかなくてはいけなくて、そこに積極的な手を入れていく必要があると思うのですが、その辺りの相談体制を厚くする必要があると思いますが、教育長のお考えを伺います。

○小林豊代子副議長 教育長の答弁を求めます。

◎吉田茂教育長 ただいまのご質問にお答えいたします。

まず、登校渋りのデータの把握につきましては、教育委員会としましても、先ほどのご答弁で申し上げましたけれども、毎月市の基準として連続なのか、または断続 10 日欠席した児童生徒を調査し、該当児童生徒の学校生活の様子や家庭環境を確認し、その後も継続して見守っております。

また、学校では毎朝の健康観察、声がけ、連絡ノートを通して、登校渋りを含む教育配慮を要する児童生徒として、今年度5月の時点において、学校訪問をやるときに資料を提供してもらうのですが、小学校 89 名、中学校 183 名、これは登校渋りとかというふうに限定してやりましたけれども、配慮を要する児童生徒を全部集めるともっと大きな数になってくるわけですが、それを把握して、それぞれの状況に応じてケース会議や定期的に部会を開くなどして具体的な支援を考え、心配な児童生徒については、家庭への電話あるいは面談の実施、家庭訪問など、きめ細やかな相談、対応を組織的に行っております。

ただ、ご指摘のように、やっぱりまだどこへ行ったらいいのだと困っていらっしゃるご家庭もあるようですので、先ほどのように、もう少し敷居を低くするというふうなご指摘ございましたけれども、そういったところでの努力はしていかなければいけないというふうに考えておりますので、この辺は指導してまいりたいというふうに思っております。これらのデータについては、教育委員会でも学校と共有しております。

今後につきましても、先ほどの答弁で申し上げましたけれども、いわゆる ICT を活用したトラブル相談ホットライン、これらの活用も含め、登校渋りの状況を学校と共有して早期発見、早期対応、早期解消に努めてまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

○小林豊代子副議長 続けての質問はありませんか。(20 番 大野保司議員「ありません」と言う)

以上で大野保司議員の質問を終了いたします。

△休憩の宣告